



図説 廿日市の歴史 P59 ⑥ 参照し、山口県文書館所蔵を知り
下のURLより「芸州巖島御一戦之図」で検索した。
または高画質画像ダウンロードコーナーより
http://ymonjo.yasn21.jp/HQ_DL/HQ_DL.html

上の島は宮島
図絵の下は本州側
この中に驚きの発見

さが もと さくらおじょうかく かん ゆいいつ きちょう しりょう はっけん
 探し求めていた桜尾城郭に関する唯一の貴重な資料 ついに発見



じご ぜんじんじゅ 地御前神社
 ふじかけおじょう 藤掛尾城
 ① さくらおじょう 桜尾城
 ② あしがはら と とり 葦原を飛ぶ鳥
 ③ えぼしいわ 烏帽子岩
 「芸州殿島御一戦之図」を上下逆回転させて
 部分拡大した桜尾城郭図

① 小高い山の上を削り城郭構造が描かれたこの場所こそ、**桜尾城**である。

当時の姿を推定できる唯一の絵図です。

海側は木などない急な崖であったため、大内は攻めあぐねたのです。

② 時代が下がって江戸時代の廣島藩主の狩場があった佐方の鴨原。

③ 昭和六年観光道路（今の宮島街道）を造ったとき取り壊された。

なぜか桜尾城郭に関する絵図などは廿日市に見当たりません。

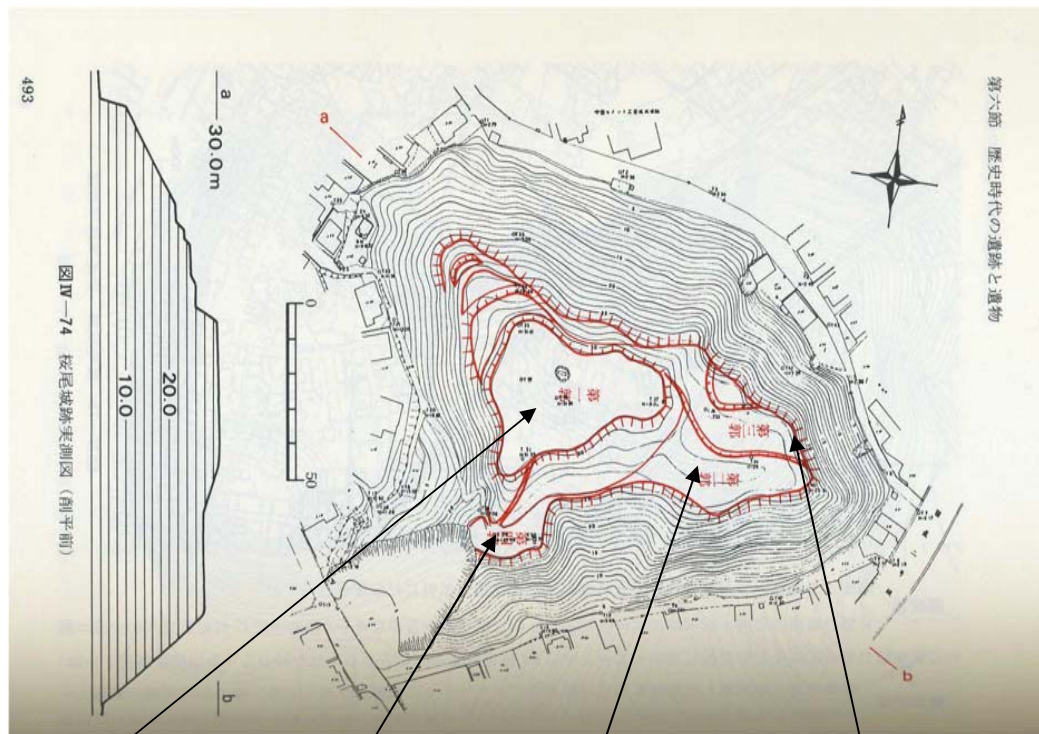
考えられる大きな理由は、天文十年(1541)友田興藤が大内義隆に城を包圍され

みずかしら 自ら城に火を放ち自害したため文書共々焼けて失ったこと。次に当時の人達は

ちやうしけんそう ちやうしけんそう ちやうしけんそう ちやうしけんそう ちやうしけんそう ちやうしけんそう ちやうしけんそう ちやうしけんそう ちやうしけんそう ちやうしけんそう

関心がなかったか、記録にとどめていても長州戦争で廿日市の町が火の海になったとき、焼失したことが考えられます。

実測図



第一郭 (本丸) 700㎡

第二郭 (二之丸) 350㎡

第三郭 (東之丸) 250㎡

第四郭

けいちよう せき はら たたかい もうりし ほうちやう てんぽう
 慶長五年(1600年)関が原の戦後、毛利氏が防長へ転封(領地の移し換え)になり、
 毛利氏支配の終焉に伴い、桜尾城は次第に荒廃していった。

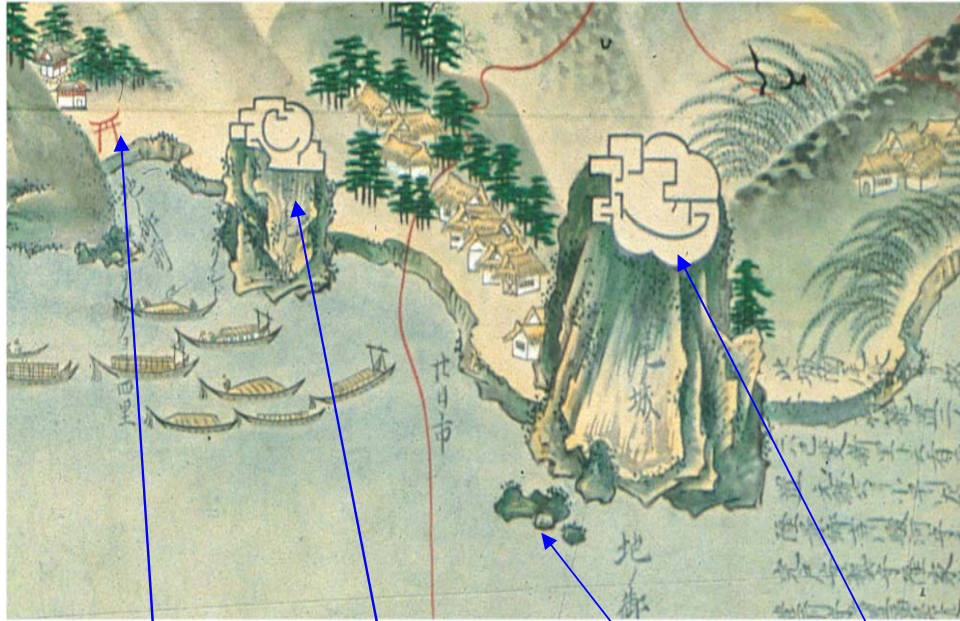
じやうし たいしやう かつらもとずみ かつらたろうし
 その後城址は、大正元年(1912)桂元澄の子孫、総理大臣三回経験の桂太郎氏

はつかいち が廿日市に寄贈し、昭和42年頃約30mの標高の桜尾城址は10mくらい削られ

あじな うめたて つか かつらこうえん ざくら めいしよ
 阿品の埋立に使われ、桂公園として、グラウンドでスポーツや、桜の名所でもあり、

市民の憩いの場となっている。

けいしゅういつくしまごいっせんのず ぶぶんぎやくてんかくだいかこうず
芸州巖島御一戦之図の部分逆転拡大加工図



じごぜんじんじや
地御前神社

ふじかけおじょう
藤掛尾城

えぼしいわ
烏帽子岩

さくらおじょう
桜尾城

とうじ さくらおじょう かいがんせん ようず
 当時の桜尾城や海岸線の様子がよくわかります。

とく さくらおじょう みなみがわきゆう がけ うみ せ
 特に桜尾城の南側は急な崖で、海から攻めにくかったことがわかります。

ふじか おじょう うみ めん
 藤掛尾城も海に面していた。

はつかいちけいさつしょ まえ ちょうおんじ えいろく かいき こうじがねん
 廿日市警察書の前にある潮音寺は、永禄九年(1566)開基なので弘治元年(1555)

にはまだなかった。潮の音と寺の名にあるように潮騒の音が聞こえる海のそばに

当初は建立されていた。潮音寺は廣島藩の農兵隊(応変隊)発祥の地である。

やまぐち てんぶうご もうりはん こうせい しりょう だいだいのこ
 山口に転封後の毛利藩は、後世わがふるさとの史料をも代々残してくれたからこそ

私達は、四百五十二年前の廿日市の様子を知ることができるのです。

《この項「桜尾城」の参考文献》

- 廿日市町史
- 佐伯町史
- 廿日市の文化 廿日市市郷土文化研究会
- 戦国武将最後の戦い 新人物往来社
- 名将を支えた軍師たち 歴史雑学研究学会
- 宮島本 廿日市商工会議所
- 桜尾城とその時代 藤下憲明
- 毛利戦記 学研
- 山口県立文書館HP
- そのほか多数の歴史関連HP